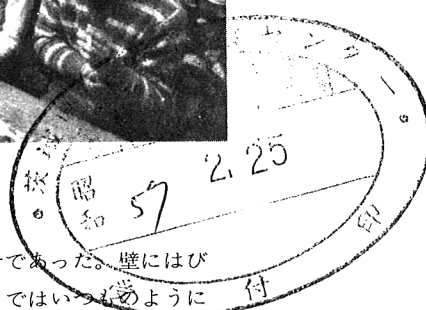




初 夢



ふと目醒ると、よく見知ったはずの場所であった。壁にはびっしりと酒瓶がたち並び、囲炉裏の向こうではいつものように人々が談笑している。しかし、場違いなほどに明るくあたたかい光が私を包み、感覚を麻痺させてでもいるのか、どうしても自分がどこにいるのか理解することができなかった。

……はっと、霧が晴れたように居所がはっきりした。なんだ、いつもの居酒屋〇〇〇ではないか。どうしてこんな場所で眠りこんでしまったのだろう……。ともかく飲み直そう。酔いの残る頭で周囲を見渡すと、にこやかに笑みをうかべながら女将が近づいてくる。声をかけようとしたとたん、今度は本当に自宅のコタツの中で目が醒めた。

罪のない初夢であった。

1月のおもな行事

- 4日 御用始め
- 11～15日 毎月勤労統計調査乙調査調査区抽出替指導(岩井市他6市町)
- 18～30日 工業に関する統計調査審査会(11市町村)
- 21～22日 労働力調査集団住宅地域現地調査(日立市、水戸市)
- 29～30日 全国都道府県統計主管課長会議(行政管理庁主催、東京都)



年頭のごあいさつ

茨城県知事
茨城県統計協会総裁

竹内 藤 男

あけましておめでとうございます。

私は、知事に就任してから早くも7度目の正月を迎えました。この間、「対話と参加による県政」を掲げ、広く県民の皆様のご意見、ご要望を伺いながら、茨城を心の豊かさに溢れた住みよい社会とするよう努めて参りました。幸い、県民の皆様をはじめ、関係各位の深いご理解と多大のお力添えをいただき、県勢も着実な発展を遂げ、県民生活も向上の一途を辿っております。ここに、改めて心から感謝の意を表し、お礼申し上げる次第でございます。

昨年は本県にとって大変実りの多い年でございます。一昨年に策定した「第二次茨城県民福祉基本計画」も、厳しい財政事情の下ではありましたが、順調に進捗しております。また、長期的な課題である「県土の土台づくり」についても、昭和60年に開催される国際科学技術博覧会が4月に正式に手続きを完了し、常磐自動車道の柏—谷田部間が同じ4月に開通し、霞ヶ浦用水事業も11月に総合起工式を行いました。同じく11月には、水戸射爆場跡地の利用計画が国有財産中央審議会の決定をみ、さらに12月には、茨城新港が五ヵ年計画に組み入れられるなど、着実に進展しております。

このように、昨年は、これまで首都圏にあり、無限の可能性を秘めながら、いわば眠れる獅子であった本県が、飛躍への第一歩を踏み出した年であったと存じます。

こうした状況の下で、昭和57年という新しい年を迎えた訳ですが、今年も依然として経済の低成長基調が続き、財政も緊縮の度を深めるものと予想され、本県をめぐる社会経済情勢は一層厳しさを増すと考えられます。

私は、これまでも県民の皆様の実に望むものを的確に把握し、厳しい施策の選択を行ってまいりましたが、今年はさらにこれを強め、限られた財源をより効率的に運用して、県民福祉基本計画の目標である「調和のとれた活力ある地域社会づくり」、「世界に開かれた茨城づくり」をすすめてまいる考えでございます。また、県土の土台づくりについても、既に着手された事業の促進を図るほか、北関東横断道の具体化に努め、第二常磐線、県南県西に続いて県中央部の広域水道事業などの課題にも取り組んでまいります。さらに、開催まで1,171日と迫った科学万博の準備も積極的にすすめてまいりたいと存じます。

今年も、思いを新たに、皆様方のご意見、ご要望に添って、精一杯の努力を重ねてまいる所存でございますので、県民の皆様をはじめ、関係各位におかれましては、県勢の発展と県民福祉の向上のために、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさついたします。

昭和57年 元旦



新年のごあいさつ

茨城県企画部長
茨城県統計協会長

三井康壽

新年おめでとうございます。

昭和57年の新春を迎え、県内統計関係の皆様にご心からお慶び申し上げますとともに、昨年中の皆様の御労苦に対し厚く御礼申し上げます。

さて、本県の状況をふり返ってみますと、資源エネルギー問題や低成長経済あるいは行財政改革など、内外の政治・経済情勢が厳しさを加え変貌してゆく中で、昭和55年に策定された第二次茨城県民福祉基本計画の第3年目を迎え、県勢は着実に発展を遂げつつあります。

ことに昨年は、1985年筑波研究学園都市での国際科学技術博覧会の開催決定、水戸射爆場跡地利用計画の決定、霞ヶ浦用水事業の起工等多くの重要施策が決定・緒に着いた画期的な一年でした。と同時に、ゆとりとうるおいのある県民福祉の一層の充実をめざして、各種施策のきめ細かな基盤整備を進めてまいりました。また、昨年は当県の岩井市弓馬田ゆまた小学校の石沢淳君、小林正一君、張替聡子さんの作った統計グラフがコンクールで全国一の栄誉を受け、中曾根行政管理庁長官から表彰されたのは、我々統計関係者としては大変嬉しい出来事でした。そして今年は基本計画の中心年として、それら多くの施策を全般的に実現させてゆく、より重要な一年となると言えるでしょう。

厳しい情勢の中で、長期的な展望に立ち、時代の要請に応じてしかも効率的に行政を運営してゆくためには、的確な現状認識、将来予測が不可欠であり、その基礎資料としてより精度の高い統計データに対する需要は増大し、統計に課せられた役割はますます重要となっています。

こうした行政の基礎を担う統計は、日ごろ調査の第一線で活やくされている統計調査員の方々、行政の先端で尽力されている市町村統計担当者をはじめとする統計関係者の努力によって支えられています。例えどんなに集計・分析技術が高度化しても、実査の精度が保たれなくては信頼に足る統計は得られないのです。しかし一方では、すでに多くの関係者から指摘され改善の努力が続けられているにもかかわらず、統計調査をとりまく環境は本県においても除々に悪化してきています。県は今後とも、関係省庁、市町村等との連携を密にして、申告負担の軽減、簡素化等を図って調査の円滑な実施を期し、また統計利用の促進に努めてまいります。県統計協会においても関係機関の協力を得て、統計知識の普及・啓蒙等に力をそそぐ所存です。どうか皆様におかれましても、統計の使命を自覚されまして、県勢発展のため今後とも一層の御尽力を賜われますようお願い申し上げます。そして、これからは単に統計資料を提供するだけでなく、それぞれの行政の部門に施策の方向とかアイデアを積極的に提唱していくようにしていきたいと願ってやみません。また、県民の皆様も統計の意義を理解されまして、調査に御協力いただきますようお願いいたします。

最後に、茨城県統計の発展と、統計関係各位のますますの御健勝、御繁栄を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。